

令和8年1月16日

No.11

自ら伸びる



発行責任者
校長 有崎 美紀



府中中央小学校ホームページ <http://chuoshoto.fuchu-town.ed.jp>

【3学期始業式 校長の話】

仕事や勉強の主人公に



元気に満ちたみなさんの声がこの府中中央小学校にもどってきました。新年を迎え、心新たにがんばろうという気持ちがみなさんの姿勢から伝わってきます。このようにものごとがスタートをする前に構えをつくることはとても大切なことです。

今日は、私からみなさんにお願いしたいことについてお話をします。ここ府中中央小学校の正門前の道路は、いろんな方の通学・通勤の道です。私も毎朝、正門前に立っていますから、だいたい顔見知りになってきます。今日は、そんな方々のうちの一人、ある女子高校生のお話をします。その女子高校生は、いつも自転車に乗り、私の前を通り過ぎる時、こくんと頭を下げ、微笑んでくれる子です。

ある風の強い日、いつものように私が正門に立っていると、斜向かいにあるごみステーションに置いてあったごみの入った袋が、風の力でころころと道路の真ん中に飛んできました。「あら、道の真ん中にごみ袋があると通行の妨げになって危ないな」と思い、拾いに行こうとしたその時、いつもの女子高校生が自転車で向こうからやってきました。すると、その人は突然自転車を止め、ひらりと自転車から降り、道路にあったゴミ袋をさっと拾って、ごみステーションまで運んでくれたのです。その後、再び自転車に乗り、何事も無かったかのように、いつもの通り会釀をして通り過ぎていきました。女子高校生がやってきて、ごみを拾って去っていくまで、時間にしてトータル1分くらいの出来事だったでしょうか。

私は、人間の本当の美しさとは、このようなふるまいをいうではないかと心が揺さぶられました。私にとってこの1分間の出来事は、美しい生き方の手本として頭に焼き付いています。暮らしに心を行き届かせるその人は、きっと人間に対しても心を行き届かせ、一人一人の人間に温かい心づかいをしているのではないか…と頭を巡らせています。

女子高校生は目の前にあるごみ袋をそのままにしておけなかったのでしょうか。

みんなが、もしこのような場面に出会ったら、どう行動するでしょうか。

女子高校生は、なぜ自分が捨てたのではない他人のゴミを拾ってくれたのでしょうか。

その人に聞いてみたことはありませんが、おそらく「だって、自分が毎日通っている道だもの」「だって、自分が暮らしている町だもの」そう答えるのではないでしょうか。

学校内にゴミが落ちているのを目についた時、「だって、自分たちの学校だもの」というような思いでごみを拾うことができるでしょうか。

係の仕事や委員会の仕事も、「だって、自分の仕事だもの」という気持ちで進んで取り組めているでしょうか。

勉強も、「だって、自分の勉強だもの」という気持ちで向き合っているでしょうか。

今年、みなさんにお願いしたいことは、「だって、自分の学校だもの、自分の勉強だもの」という思いで取り組む仕事や勉強の主人公になってほしいということです。

さあ、令和8年のスタートです。今年一年どんな年にしますか。どんな自分になりたいですか。

自分を育てるのは自分です。自分を動かすのも自分です。友達や先生、クラスや学年の仲間の力を借りながら、なりたい自分に向かって伸びていくみなさんの姿を楽しみにしています。

【児童代表の言葉】 「三学期に向けて」

4年 代表児童

私は、三学期に向けてがんばりたいことがあります。それは、あいさつです。四年生の始めのころは、きんちょうして、同じクラスになった友達と話すことができませんでした。

そんな時、友達との会話をきっかけに、面白そうで話してみたいなと思う人がいました。でも、

「無視されたらどうしよう、いつ声をかけたらいいのかな。」

と不安な気持ちもありました。どうしたら仲良くなれるのだろうと考えて、私は「まずは、あいさつから始めてみよう。」と決めました。

最初は声が小さくて、「今の聞こえたかな？」と自分でも心配になりました。あいさつをしても、返ってこない日があって、少し元気がなくなりそうな時もありました。それでも、勇気を出して、毎日あいさつを続けました。

すると、少しずつ話すことが増え、いつの間にか自然に話せるようになっていました。今では、とても仲のよい友達です。

また、ほかの友達にもあいさつをしていると、向こうから声をかけてくれることも増えました。「あいさつは、人と人をつなぐ大切な言葉なんだな。」と思いました。

小さいころは、当たり前にできていたあいさつも、だんだんはずかしくなって、少なくなってきたことに気付きました。でも二学期、あいさつを続けたことで、「自分の気持ちを相手に伝えること」の大切さを学びました。あいさつをがんばったことで、友達との仲が深まり、自分に自信もつきました。

三学期も、あいさつを大切にして、勉強や係の仕事でも、自分から進んで行動したいです。これからも、勇気を出して新しいことにちょうどせんしていきます。

熱く燃えたCSミュージックフェア♪

12月22日（月）の昼休憩に、CS サポーターさんによる「ミュージックフェア」が開催されました。今年度は、中央小卒業生のドラマーや、地域の皆さんによるハーモニカやフルートやヴァイオリンの演奏もありました。昼休憩になると、子どもたちだけでなく保護者や地域の皆さんもたくさん体育館に集まってきた。「恋人たちのクリスマス」や「きよしこの夜」などのクリスマスソング等の歌や合奏があり、6年生の有志の子どもたちがサポーターさんの傍で演奏に合わせてリコーダー演奏をしたり踊ったりと場を盛り上げてくれました。集まった子どもたちも演奏に合わせて手拍子をしたり、踊ったりして盛り上がり、体育館が一体となって楽しみました。フェアの後は、「楽しかった。」「また来年もやってもらいたい。」という声があちらこちらで聞かれました。子どもたちも教職員も保護者も地域の皆さんも楽しいひとときを過ごすことができました。



6年生ダンス隊による
ダンス披露



府中中央小学校にサプライズのサンタクロースが現れる！

12月23日（月）の給食は、クリスマスデザートでした。中央小学校にサプライズとして、サンタクロースとトナカイが現れ、子どもたちに一足早いクリスマスケーキのプレゼントがありました。廊下から聞こえてくる鈴の音に、「自分たちのクラスには、いつ来てくれるのかなあ。」と目をキラキラと輝かせたり、そわそわと教室の窓から顔を覗かせたりと、サンタクロースたちの来訪を待ちわび、美味しいケーキにも大喜びでした。サンタクロースやトナカイは、読み聞かせグループ「Sweet」の皆さん協力して変装してくださいました。このように、地域の皆様に支えられて貴重な体験ができるのは、幸せなことです。



今年もよろしくお願いします～気持ちのよい新年を迎えて～

新年の始まりに合わせて、正門前と職員玄関横に、大きな門松が設置されました。この立派な門松は、2年生児童のお祖父様が、12月26日の午後、約2時間かけて作ってくださいました。始業式に登校した子どもたちは、普段見ることのない大きな門松に驚いていました。また、児童玄関には本校教員による子どもたちを迎えるメッセージを掲示しました。今年もみんなが元気に楽しく学校生活を送ることができますように…。



とんど祭り～地域みんなで創り上げる伝統行事～

1月11日（日）に、コミュニティ・スクール主催のとんど祭りが本校のグラウンドで行われました。10月末から町内会長さん・PTA役員さん・CS サポーターさん達と打ち合わせを始め、12月には竹の切り出しやふるまいの準備を行いました。当日のとんどの櫛作りから灰の片付けに至るまで、町内会や保護者、中学生・高校生の学生ボランティア等、たくさんの方々にご協力をいただきました。この日に至るまでに、子どもたちの喜ぶ顔を想像しながら、たくさんの方々と協力しながらに1つの行事を創り上げる喜びを感じました。今年は、浜田二丁目町内会さんによる餅つきもあり、正月の行事を感じられるものとなりました。

12時40分から神事が執り行われ、今年一年の無病息災が祈願されました。その後、年男や年女によって点火され、皆さんが見守る中、大きな炎が空高く上がり、とんどが燃えていきました。地域にこのような伝統行事があり、それを経験できることは素晴らしいことです。今後も子どもたちが伝統を引き継ぎ、地域に誇りと愛着をもってほしいです。



横断幕がリニューアルしました!!

正門から入って校舎を見上げた際に、「Be **e** Happy！」の横断幕が掲げてあるのをご存じでしょうか。これは、本校創立50周年記念のテーマに合わせて、当時のPTAの皆さんのが作成されたものでした。2つめの「e」が強調されているのは、emotional（感動的に）、entertain（楽しませる）、excellent（優れた）、easy（気楽に）等、様々な意味が込められています。

Happyには、府中中央小学校の校歌の歌詞「毎日 楽しい 幸多い」のとおり、子どもたちに楽しい学校生活を送ってもらいたいという願いが込められています。

今年度の被爆80周年記念事業と合わせ、6年生の総合的な学習の時間の学びから、保護者や地域に平和の尊さをつないでいくために、

「平和だから楽しめる！」との思いを込めて横断幕をリニューアルしました。来校の際には、是非、正門から見上げていただき、願いのこもった横断幕をご覧ください。



豊かな言葉のつかい手～第78回鈴木三重吉賞～

広島市出身の児童文学作家鈴木三重吉にちなみ、中国地方の小中学生を対象に作文と詩を募り、応募総数5464点（作文2847点・詩2617点）のうち、本校から4年生児童の作文が優秀賞を受賞しました。初めて電車に乗り合わせた障害のある人に対して自分が抱いた思いを素直に表現している作品です。

「どうぞ。」
今年の夏、わたしは、たった三文字なのにこの言葉のもつ重みを知った。
八月十三日、わたしは家族と地下鉄に乗つていた。その日は満員で、わたし達は立つたまま電車にゆられていた。駅に止まるたびに人が出たり入つたりして、次第に多くなつていつた。
その時、わたしのとなりに一人の男の人が立つた。その人は、黒の長ズボンに半そでの灰色シャツを着た五十代ぐらいの人。そして、持つている黒色のカバンには、病院のマークと赤色のハートマークがあつたのだ。わたしは、すぐに、障害のある人だと思った。学校では、車いすの体験をしたり調べたりして学習してきたが、ヘルプマークを付けた人に会つたのは初めてだった。
わたしは、すぐに席をゆずろうと思ったが、わたしも立つてるので、席をゆずれない。席にすわっている人がゆずるのかと思つたが、だれも席をゆずろうとしない。わたしは、急に不安になつてきた。もし、この人が急にたおれたら…。もし、このままでも席をゆずらなかつたら…。考へるほど、不安になつてくる。
でも、わたしは、ふと気付いた。もしかしたら、みんな気付いているのかもしれない。みんなもわたしと同じように、「どう

四年 ○○ ○○

三文字の重み

ぞ。」の三文字が言えず、不安な気持ちになつてゐるのかも知れないと。
わたしだって、席にすわつていて、本当に「どうぞ。」と言つて、席をゆずれたのだろうか。みんなと同じで、席をゆずれないままなのではないか。
すると、次の駅に着き、人がさらに多くなり、わたしとその人のきよりが、少し遠のいた。内心、ほつとした。
でも、まだ、人と人のすき間から、その人の姿が見えた。まだ、その人は立つたまま。だれも、席をゆずつていないので。
わたしは、苦しさとくやしさで胸がいっぱいになつた。
そのまま、電車は終点まで進んでいく。いつの間にか、わたしとその人の間にいた人はいなくなり、その人とのきよりも元にもどつた。その人は、手すりにもたれかかっている。あいかわらず、だれも声をかけられる人はいない。
「がんばつてください。もう少しです。」
わたしは、心の中で必死に応援する。応援する以外に、わたしにできることがないからだ。
とうとう終点だ。最後まで声をかけた人ではない。あの人のせながが、どんどん遠のいていく。ダメだ。あやまらなければ…。
わたしは、今でも、あの日のことが忘れない。すなおに声がかけられる、そんな人に成長していきたいと強く思う。

「じまんの俳句」代表作品

今回は自由投句でした。クリスマスや寒い朝、こたつ、ストーブなどをテーマにした、冬ならではの俳句が集まりました。

ぶらんこに かぜがのつて そらをとぶ

三年 代表児童

この俳句の魅力は、なんといっても「ぶらんこに風がのつて」という表現です。「風になつて」という表現はよく聞きますが、○○さんは「風がのる」と表しました。もちろん、ぶらんこに乗っているのは○○さんです。が、一緒に風も乗つて、高く高く空を飛ぶかのようにこいでいるの刺でしょ。その光景がありありと目に浮かぶのと同時に、頬を冷たくす冬の風も感じられる素敵な俳句です。

こそこそと アイスうましと もう一つ

四年 代表児童

○○さんの作品は、教室にも図書室前のポストにもたくさん入つて、その数の多さに驚かされました。常に、「何か俳句になりそうなことは?」と考えているのでしょうか。だからこそ、こんな素敵なお句がうまれたのかもしれません。夏のアイスもおいしいですが、冬の寒い時に食べるアイスも格別なもので。あまりのおいしさについ、アイスを「もう一本!」とおわりをしている、しかも、誰にも見つからないようにこつそりと冷凍庫からアイスを引っ張り出している○○さんの様子が目に浮かぶよ。うで、思わず、くすくすと笑いたくなるそんな俳句です。

真夜中の おさんぽ気分 六時半

五年 代表児童

冬は暗くなるのがとても早いですね。それを、うまく表現している俳句です。まだ六時半なのに、あたりは真夜中みたいに真っ暗。そんな風に感じたのでしょうか。下の句の「六時半」という五音が、とても具体的で効果的に響いている作品です。まるで真夜中にお散歩しているように、ちょっとドキドキしている○○さんの気持ちまで伝わってきます。

アンケートへのご協力ありがとうございました

保護者の皆様には、ご多用の中、第2回「いじめ、体罰、セクシャルハラスメントアンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。アンケート結果をもとに学級担任が事実関係を確認し、話し合いや学級指導をしました。

今回のアンケート結果からは、「言葉の意味をきちんと捉えたり相手の気持ちを考えたりせず、軽い気持ちで傷つく言葉（悪口や陰口）を言ったり乱暴なことをしたりしている」ことが分かりました。低学年では登下校や遊び中のトラブル、高学年では教師の目の届かないところでのトラブルも起こっています。

学校では、望ましい行動に着目し、増やす取組を行うとともに、児童の合意形成を図るための話し合い活動やマイプラン学習を通して、相手に伝わるように話す力と友達の考えを聞く力、人を認める発言や態度を習得させる指導をしていきます。また、「SSTと道徳科授業を組み合わせた道徳教育プログラム」と関連付けて、道徳科や話し合い活動などにSSTの要素を取り入れ、良好な友達関係や教師との関係の構築を目指し、思いやりの気持ちを育む教育活動を行っていきます。また、「はちの子の心得」の話し合いを通して、「どんな学級・学年を目指していくのか」を考え、繰り返し問い合わせことで、「みんなで暮らしをつくる」とはどういうことなのかを子どもたちと共に考えていきます。

これからも、全教職員で共通認識を図り、今後も保護者の皆さんと連携を密にしながら、心を育てる取組を進めていきたいと思います。ご家庭でも折にふれてお子さんと話し合ってみてください。ご協力をよろしくお願ひします。